

## 海上セキュリティ最新情報（フジャイラで発生した事件を受けて）

こちらは、英文記事「[Maritime security update on Fujairah incident](#)」（2019年5月23日付）の和訳です。

2019年5月12日に UAE フジャイラ沖合の停泊地付近で海上事件が発生したことを受けて、OCIMF（石油会社国際海事評議会）と国際独立タンカー船主協会（INTERTANKO）は、船舶の船長向けのガイダンスを発表するとともに、船舶運航者にベストマネジメントプラクティス5（BMP5）の再確認を行うよう推奨しています。



本稿は2019年5月14日付のアラート記事「[Incident at Fujairah anchorage](#)」（英文）の続報です。

OCIMFとINTERTANKOが発行した[共同プレスリリース（英文）](#)によると、2019年5月12日にフジャイラ停泊地で4隻のタンカーが襲撃された事件は、計画的かつ組織的な犯行であったようです。また、その襲撃手口は、遠隔操船した船やダイバーを使って、船体の水面下部分に爆破装置を仕掛けたものであったということです。こうした手口は、ほぼ停止状態にある船舶や、制限水路を航行する船舶を襲撃する際の一般的な手口であり、過去に[紅海南部](#)で船の攻撃に使用された水上簡易爆炸装置（WBIED）よりも実行が簡単です。

### リスク低減対策

OCIMFとINTERTANKOは、船舶運航者に対して、[BMP5（英文）](#)を再確認し、以下のガイダンスを各船に伝えるよう推奨しています。

- 過去に襲撃事件などが発生地域や、脅威の状況に変化が見られる水域やエリアに入る前に、船や航海に固有の脅威リスク評価を改めて実施すること。
- リスク評価後、船舶保安計画を再検討すること。
- 脅威の概要を記載した、BMP5のセクション2を再確認すること。
- 停泊時には、船橋当直に十分に注意して監視に当たらせること。
- 甲板パトロールを実施すること。
- 海上保安パトロールを実施すること。
- 通信を厳しく監視し、接近してくる全ての船舶との通信を確立すること。
- 乗船管理を徹底すること。

- ギャングウェイやラダーは必要な場合にだけ下すこと。
- 可能であれば船外照明を（特に船尾部分に）設置し、できればサーチライトを設置・利用すること。
- 疑わしい行為を発見したら直ちに港湾と UKMTO（英国海軍商船隊司令部：  
+442392222060）の両方に電話で報告すること。
- VHF 及びその他の通信チャネルを監視すること。
- 消火装置がすべてすぐに使用できる状態であるかチェックすること。メンテナンス中の場合は、緊急用の消火ポンプが使用できる状態かどうかをチェックすること。
- 船舶自動識別装置（AIS）を常に作動させること。直近の寄港地や次の寄港地を示すフィールドは入力不要。

## フジャイラ港の状況

UAE の Gard の現地コレスポンデントによると、2019 年 5 月 22 日現在フジャイラ港は通常どおり稼働しているとのこと。ただし、状況は変わることがあるため、船長は現地港湾当局や代理店と緊密に連絡を取り、常に最新かつ信頼性の高い情報を入手するようにしてください。

旗国によっては、当局からフジャイラ港に関して高い保安レベルが求められることがあり、その場合、船舶は、正規の船舶保安計画（SSP）に従って、追加の安全対策を導入しなければなりません。例えば、ノルウェー海事当局は 2019 年 5 月 13 日付で、フジャイラ港に停泊する [ノルウェーの船舶 \(英文\)](#) に求める保安レベルを、暫定的に ISPS1 から ISPS2 に引き上げました。

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されております。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文と内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。